

平成30年

東京都教育委員会臨時会議事録

日 時：平成30年 3月29日（木）午前10時00分

場 所：教育委員会室

平成30年3月29日

## 東京都教育委員会臨時会

### 〈議 題〉

#### 1 議 案

第30号議案

平成30年4月1日付東京都公立学校長及び副校長の人事異動について

#### 2 報 告 事 項

(1) 大島海洋国際高等学校在り方検討委員会報告書について

教 育 長	中 井 敬 三
委 員	遠 藤 勝 裕
委 員	山 口 香
委 員	宮 崎 緑 (欠席)
委 員	秋 山 千枝子
委 員	北 村 友 人

事務局（説明員）

教育長（再掲）	中 井 敬 三
次長	堤 雅 史
教育監	出 張 吉 訓
総務部長	早 川 剛 生
都立学校教育部長	初 宿 和 夫
地域教育支援部長	安 部 典 子
指導部長	増 淵 達 夫
人事部長	江 藤 巧
福利厚生部長	太 田 誠 一
教育政策担当部長	古 川 浩 二
教育改革推進担当部長	増 田 正 弘
特別支援教育推進担当部長	浅 野 直 樹
指導推進担当部長	宇 田 剛
人事企画担当部長	鈴 木 正 一
(書 記) 総務部教育政策課長	曾 根 稔

## 開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【教育長】 ただいまから平成30年教育委員会臨時会を開会いたします。

本日は、宮崎委員から、所用により御欠席との届出を頂いております。

本日は、朝日新聞社からの取材と4名から傍聴の申込みがございました。冒頭のカメラ撮影はございません。以上につきまして、許可してもよろしゅうございますか。

—— 〈異議なし〉 ——では、許可いたします。入室させてください。

### 日程以外の発言

【教育長】 議事に入ります前に申し上げます。

東京都教育委員会において、一度注意してもなお議事を妨害する場合には、東京都教育委員会傍聴人規則に基づき退場を命じます。特に誓約書を守ることなく、退場命令を受けた者に対しては、法的措置も含めて、厳正に対処いたします。

なお、議場における言論に対して拍手等により可否を表明することや、教育委員会室に入退室する際に大声で騒ぐ、速やかに入退室しないと行った行為も退場命令の対象となりますので、御留意願います。

### 議事録署名人

【教育長】 本日の議事録の署名人は、山口委員にお願いいたします。

非公開の決定でございます。本日の教育委員会の議題のうち、第30号議案につきましては人事等に関する案件でございますので、非公開としたいと存じますが、よろしゅうございますか。—— 〈異議なし〉 ——では、ただいまの件につきましては、そのように取り扱わせていただきます。

## 報 告

(1) 大島海洋国際高等学校在り方検討委員会報告書について

【教育長】 それでは、報告事項(1)大島海洋国際高等学校在り方検討委員会報告書について、都立学校教育部長、お願いします。

【都立学校教育部長】 それでは御説明申し上げます。本報告でございますけれども、このたび、外部有識者や保護者代表などから構成します大島海洋国際高等学校在り方検討委員会の場での検討結果がまとまりましたので、報告書として御報告をさせていただきたいと思っております。

報告書の内容を御説明申し上げます前に、概要版の次のページになりますけれども、改革イメージの資料を使いまして沿革の方を先に説明させていただきたいと思えます。

大島海洋国際高校の前身でございますけれども、この資料の左側でございます大島南高校でございます。大島南高校でございますが、沿革の概要でございますように、昭和21年4月に都立大島農林学校に水産科を設置したことを始まりとしております。この水産科でございますが、水産業や遠洋漁業などに従事いたします中堅技術者を育成してまいりました。

しかし、その後、課題でございますように、海運業の合理化や輸入水産物の増加などに伴いまして、生徒の進路を十分確保できなくなるとともに、経済や社会のグローバル化によります国際人の育成の必要、それから生徒の大学等への進学希望への対応という課題が生じまして、対応する必要が出てまいりました。このため、資料の中ほどでございます大島海洋国際高校の欄でございますが、平成18年4月に学校名を都立大島海洋国際高校に変えまして、学科を国際科に改編し、国際社会に通用する自律的な国際人を育成するための教育を行ってまいりました。

それでは、概要版の1ページ目を御覧ください。ただいま御説明しましたことが第1の1に簡潔に書いてございます。第1の2「大島海洋国際高校の現状」でございます。これは報告書をお配りしてございます。この2ページを御覧いただければと思います。2ページの下段に図1「応募倍率の推移」をまとめてございます。図の左側は大島南高校水産科のときのものですが、このときの応募倍率の平均は1.93倍と高い応

募倍率でございました。生徒、保護者から高い評価を受けておりました。そして平成18年4月、黒い線で縦線を引いてございますが、大島海洋国際高校国際科に改編いたしました。この後、応募倍率が低い傾向となっております。具体的に比較するに際しましては、大島南高校の水産科の定員が35名、一方、大島海洋国際高校の定員は80名となっていることを考慮する必要がございますが、改編後に1倍を大きく下回る時期もある実態でございます。

それでは次に、報告書の3ページでございますが、ここに図2といたしまして、1年生から2年生に進級する際の進路選択の状況をまとめてございます。例年、海洋系への意向が強い傾向が出ております。そして、下の図3でございますけれども、こちらは入学前に何に興味を持って大島海洋国際高校を受検したかということをもとめているものでございます。御覧いただきましたとおり、航海実習や寄宿舎生活については、回答した生徒の5割程度が興味を抱いて入学している状況、また、国際に関する項目については興味が薄いまま入学している状況が御覧いただけるかと思えます。

そして、隣の4ページでございますが、この図4に直近3か年の進路状況をまとめてございます。御覧いただきますと、この図の下の方に文章として簡単に書いてございますが、国際系の中に例年海洋系に進路をとる生徒が一定数存在している。国際系の子たちの進路先は学びと関係の浅い進路が多い、また転学者が多いという状況でございます。海洋系のところでございますが、海洋系の子供たちについては、学びと関係の深い進路が多い、そして転学者が少ない、進路決定率が高い、これは国際系と比較した状況でございますが、そういったことが読み取れるかと思えます。

なお、直近の卒業生の進路について御紹介申し上げますけれども、海洋系の生徒でございますが、東京海洋大学や三重大学などの海洋系の国公立大学、そして東海大学などの私立の海洋系の大学にも進学してございます。さらには、海上技術短期大学にも10名前後進学するなど、海洋系の進学者が多い状況でございます。また、国際系でございますけれども、国際系の子供たちについては、国際系の学部かどうかにかかわらず、私立を中心に様々な大学、専門学校に進学している状況でございます。

こういった状況でございますが、この4ページの下の方に書いてございます「学科の改編から10年以上を経過した今、これまでの成果をしっかりと検証した上で、こう

した生徒のニーズを正面から捉え、生徒、保護者の期待に応えていくことも、課題の一つである」ということで検討委員会ではまとめてございます。

そして、改編後10年余りが経過いたしまして、今まで御説明申し上げたような課題が見えてきた中、実習船「大島丸」の老朽化に伴う新造船の建設時期ということを抑えまして、今年度、この検討委員会を設置して、検討を進めてきた次第でございます。

そういったことを踏まえて、5ページ以降には、一方で、国、それから東京都の計画を背景として紹介してございます。それが第2-1から第2-3まででございます。概要版では左側の中段以降になってございます。

そして、こういった状況を踏まえて、第3「国際的に活躍できる海洋人材の育成に向けて」ということで、かつての大島南高校のような水産業や漁業の従事者を主に育成するのではなくて、これまでの大島海洋国際高校で培いました国際人の育成の基礎を受け継ぎまして、明確な教育理念の下、水産科に改編した学校で真に国際社会で活躍できる海洋人材を育成する方向で案をまとめた次第でございます。その中身を概要版の右側、第4「大島海洋国際高校の今後の方向性」としてまとめてございます。報告書では9ページ以降になります。

まず、「教育の理念と教育目標」でございますが、ここに特に教育理念「海に学び、未来を拓く。」という表現になってございます。これは、大島南高校時代から学校でスローガンとして大切にされてきた言葉がございまして。海を通して世界を知る、これを理念として昇華させた言葉になってございます。それから、七つの教育目標を実践していくということで教育目標を立ててございます。

そして、「基本的な枠組みの方向性」といたしまして、報告書では12ページ以降になります。広く海洋を学べるカリキュラムを実践していくことから、現在の「国際科」から「水産科」に学科改編することを前提として想定、そして、育成すべき海洋人材像に基づいて、具体的な分類といたしまして、船舶運航技術、海洋生物、海洋産業、海洋探求の四つに分類することを想定してございます。その他、学校の設置場所や学校名、学校の規模、学校の在り方と育成すべき海洋人材像に基づく区分等及び改編予定年度を検討し、整理をしてございます。

報告書の13ページに「改編予定年度」を書いてございます。一番上の（４）でござ  
います。この報告書では、平成32（2020）年4月ということでまとめてございます。  
これはもう一つ意味がございまして、実習船「大島丸」の建造を今進めておりますけ  
れども、その竣工予定年度と同時期を想定した報告書となっております。

それから、概要版の「3 教育の方向性」でございまして、1点目、「共通して実施  
すべき教育の方向性」として、学校全体で取り組むべき教育の方向性として、高等学  
校学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた取組、校内での学び、ドミトリ、これは寄宿  
舎でございまして、ドミトリでの学び、外部の教育力の活用及び教員の育成について  
検討、整理をしてございます。2点目、「四つの分類ごとに実施すべき教育の方向  
性」としまして、具体的なキャリア像、教育の方向性、想定される教育環境及び想定  
される大学、地域、他機関との連携について検討し、整理してございます。

それから、4といたしまして、「今後、実現に向けて取り組むべき事項」を報告書  
の19ページ以降にまとめてございます。10点ございまして、1点目が「教育内容、教  
育課程」、2点目が「実習船『大島丸』を活用した実習」、3点目が「国際的な視点  
に立った教育」、4点目が「系統的な進路指導」、5点目が「高大連携、関係機関と  
の連携」、6点目が「寄宿舎での教育」、7点目が「入学者選抜」、8点目が「教職  
員等の確保・育成」、9点目が「地域振興・島しょ振興への取組」、そして、10点目  
が「教育に必要な環境の整備」ということで、取り組むべき事項としてまとめて  
ございます。

今後でございましてけれども、この報告を受けまして、報告の内容の実現に向けて更  
に検討を重ねて、来年度策定を予定しております都立高校改革推進計画での位置付け  
なども検討しながら取組を進めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございまして。

【教育長】 ただいまの説明につきまして御質問・御意見がございましたらお願い  
いたします。

【遠藤委員】 御説明では、今の状況にある意味では打破していこうということ  
で、国際というものを一層水産の方にリンクさせる。そして、そうしたものと今ある  
海洋系に特化する、それに国際を入れるということも取組としてはいいと思うのです



けれども、ただ、それを大島海洋国際高校という名前にこだわる余り、国際の方を何とかしようという、特徴である海洋系の方がおろそかになるのではないか。むしろ、この学校が今、生き残ってきている原点というのは海洋系の特徴だと思うのです。ですから、こういう方向で水産科が2学級となるのは私は非常にいいことだと思いますので、これはこれでいいと思います。

ただ、今、全国を見渡しますと、少し知識がないといえますか、いろいろな情報だけが断片的に入ってくるのですけれども、いろいろなところにあった海洋系、水産系、あるいは潜水技術を学ぶというような公立学校、高校が廃校しているという状況があるのです。そこで、全国的にそういうものが、正にこの理念にあるように、海に囲まれた日本で海洋人材の育成というのは非常に重要なわけですけれども、大島海洋国際高校はこういう形で、むしろ海洋系を拡充する形で生き残っていく。ほかのところはそういう力もないということで、科が廃止になったり、高校自身が無くなってきている。例えば、よく甲子園をにぎわせていた沖縄水産高校も、名前が変わる、あるいは縮小するということになる。

私はいつも、これは個人的な持論で申し上げているのですけれども、都立高校に対して今でも地方から転勤してきた人が補欠で入るとかそういうものがあるのですが、そういう形ではなくて、初めから、大島海洋国際高校はこういう科目がありますよ、全国レベルで、ここで勉強したい人には寄宿舎もありますよ、どうですかという形で、これはこの報告書とは少し離れるのですけれども、これを拝見していますと、こういう学校が東京にあるのならば自分の子供をここにやりたいなという北海道から九州までの保護者がいた場合に、今の制度だと都民にならないといけないわけです。そうすると、それは制度的にそういう形の都民になる枠を作れば入れるのかもしれないのですけれども、そういうことではなくて、もっとオープンに、門戸を広げることについて、今すぐは難しいと思いますが、大島海洋国際高校が新たな枠組みでスタートするに当たって、そういう方向性で日本全体ということを考えた場合に、この学校の位置付けというのはものすごく重要になってくるのではないかと思います。そんな方向性も将来的に考えていただければ、私はすばらしいなと思っております。

【都立学校教育部長】 都立の高校でございますので、都外から子供だけというわ

けにはいかないところがございますので、是非、御家族で都内に引っ越していただいて、都民となって本校に通っていただければと思っております。

先ほど、国際的な点での教育について御指摘を頂きました。それは報告書の20ページで少し触れてございます。この大島海洋国際高校の特徴として、実習船を活用した教育とともに、寄宿舍（ドミトリ）がございます。（3）にございますが、ここの中では、東京都教育委員会の施策として、例えば、TOKYO GLOBAL GATEWAYの活用、こういうものは当然やっていきます。それから東京イングリッシュ・エンパワーメント・プロジェクト（TEEP）の活用等を考えておりますが、これも、大島海洋国際版TEEP、これは寄宿舍がございますので、そういった中での何か新しい取組ができないだろうかということも検討を進めてまいりたいと思っております。そういったことから、決して国際的な教育というのを捨て去るわけではなくて、どちらかというと全てに共通する横串が刺された教育を展開していきたいと考えている次第でございます。

【北村委員】 いろいろ御検討を重ねられて、更に充実した教育を期待したいと思っておりますけれども、2点コメントがあります。1点目は、教育内容、教育課程の改編をする中で、この報告書の中でも委員の方から、例えば論文などを指導する中で、普通教科と専門教科をバランス良く生かしていくような教育の手法だとかが強調されていますけれども、学習指導要領が改訂されて、さらに2020年は大学入試も変わっていく中で、正にここでこそ学べる学びがあると思います。特に19ページ辺りに具体的な御提案も委員の方からなされていますので、是非こういったものを生かして教育内容をより練り上げていただきたいというのが1点目のコメントになります。

2点目は、これは個人的な意見ですが、水産科だったものが国際科になって、また水産科に戻るみたいな印象をちょっと受けないかなと。もちろん水産というのは非常に重要なわけですが、具体的な分類の中には船舶運航技術、海洋生物、そして海洋産業、海洋探求とある中で、水産としてしまうと産業的な印象が強くと出過ぎないのかなと思ひまして、なぜ水産科になるのか。それこそ海洋科でもいいのではないのかなと思ひたりもしたのですけれども、その辺りはどんな議論がなされたのか、お伺いし

たいと思った次第です。

【都立学校教育部長】 学校の特色を明確にしたいというのが根底にございました。そんな中で、この検討委員会では水産科といたしました。確かに議論の過程の中で海洋とかいろいろな名称が出てまいりましたけれども、より明確にした結果が本件の報告書となってございます。

【北村委員】 もちろん御専門の先生方も入られたり、保護者等いろいろな立場の方々が御議論されたと思いますので、こういった名称で明らかになるというのものもあるのかなと思うのですが、何となく印象として産業人材育成みたいな色が強く付いてしまって、せっかく探求的な学びであるとか、それこそ大学であるとか、もっとその先にもつながるような、海洋生物とか海洋探求とかのすばらしい分類があるにもかかわらず、学科名が少し矮小化わいされてしまっていないかなというのは懸念として思います。今後また少しそこら辺を御議論いただけると個人的には有り難いなと思っております。

【ものづくり教育推進担当課長】 今の件について補足で御説明をさせていただきます。報告書12ページ、中段の（1）「学校の設置場所や学校名、学科名」を御覧いただきたいと思っております。

今、北村委員の方から御意見を頂いた件についてですけれども、学科は水産科とさせていただきますが、学科名称については、これまでの教育である国際を引き続きやっていくということと、水産というよりは、広く海洋について学ぶということから、学科名の名称は変更せずに大学科だけを変えるということですので、水産科として世の中に周知をしていくという想定はないということでございます。

【北村委員】 水産科の中に四つの分類があるということですよ。少し誤解があるのかもしれないのですが、大島海洋国際高校があって、その中に水産科があって、そこに学級が二つあると。

【ものづくり教育推進担当課長】 学科の種類といたしまして、法令上の区分で水産に関する学科という名前になっております。これは国の学習指導要領を海洋にしてくれるといいのですが、海洋に関する学科となっておりますので、大学科は、法令上の区分は水産学科ですけれども、東京都としての学科名は海洋国際科とし

ていきます。

【北村委員】 分かりました。それで今、納得しました。学習指導要領に合わせて水産科という名称は付けるけれども、それはあくまでそちらの規定に合わせているだけということですね。今ので分かりました。

【秋山委員】 この10年間、国際科を設置されたということは、やはり意味があったと思います。その10年間で培ったもの、得たものを是非今度、新しいところで生かしていただきたいと思います。

【山口委員】 非常に特色のある学校で、都立高校全般で言うと、例えば自分の学力のレベルとか、もちろん学校の特徴もありますけれども、それ以上に、ここを目指してくる子たちは強い思いみたいなものがあると思うのです。そういった意味から言うと、ここで教育したい生徒像みたいなものも、何となく似たような、どこの高校でもあるような文言ではなくて、より具体的に、こういうふうなところで活躍してもらいたいんだというような将来に向けたメッセージみたいなものを、他の学校より、より鮮明に打ち出していただいた方が、私は、教育の価値としても上がるし、ここの特色というものが非常に出るのではないかなと思います。そして、大島という地域ですよ。そこのところも、書いてはあるのですけれども、何かもっとう、ばんっと強く出てくるといいかなと思います。

そして、この教育を受けた人たちが、アウトプットというか、どこで活躍するか。もちろん進学もあるのですけれども、その先を見据えて、日本は海に囲まれた国であるということも含めて、どこまで言えるのかは分かりませんが、生徒像の中に打ち出していただくと、来る子供たちがそこに夢を持って来てくれるのかなと思いました。

【都立学校教育部長】 そういった議論も非常に重要だと考えて、私どもも、これを検討するに当たりまして、キャリア像というものを明確にしていこうということで検討を進めました。その結果が報告書の15ページ以降で、系列ごとに具体的なキャリア像を示して、こういうキャリア像を考えて3年間過ごしていただきますということメッセージとして発したつもりでございます。今後、実現に向けて取り組んでいく中で、今、山口委員のお話にありました点に注意しながらやっていきたいと思ってお

ります。

**【遠藤委員】** 報告書の3ページに、国際系の授業ということで、留学生がありますよね。グラフを見ると結構なウエートなのですが、現状は、海洋系に留学生はいない、国際系にはいる。新しい枠組みでも留学生の受入れはするのでしょうか。というのは、逆に、何で海洋系に留学生がいなかったのかなというのが不思議なのです。むしろ、日本の水産業、あるいは海の産業といいますか、もろもろを全て考えますと、例えばマグロ船も、ほとんどの船が外国の若者が船乗りとして乗っているという中で、例えば、今度の水産科の方に国際系だけではなくて水産科の方にも留学生の希望があれば受け入れていくのか、あるいは積極的に受け入れるのか、その辺の新しい枠組みでの留学生に対する対応というのはどのようにお考えになっているのでしょうか。

**【都立学校教育部長】** 留学生については検討しております。一方で、物理的な問題を申し上げますと、寄宿舎（ドミトリ）のキャパシティの問題、それから実習をするときに実習船「大島丸」のキャパシティの問題がございますことから、まずは本校の生徒を中心にしており、しかも入学者選抜の倍率が1倍を超えている状況、それから今後も恐らく高い状況が続くであろうとしたときに、キャパシティの問題があります。けれど、今、遠藤委員からお話ございました留学生、これも非常に大事な視点だと思っておりますので、いい形で受け入れていきたいという考えはございます。

**【遠藤委員】** 私は以前インドネシアの漁港に行ったことがあります。そのとき、日本のマグロ船などが着いているのですけれども、そこではインドネシアの若者たちが働いていて、どんどん乗り込んでいく。船員だけではなくて、例えばオフィサーや何かという形で日本の船を支える。では、日本の若者たちが日本の漁船やら貨物船を支える人材として頭数が足りているかというと、現実には足りていないわけです。だとすると、こうしたところで留学生もどんどん受け入れる。

ですから、キャパシティの問題というふうに言われましたけれども、それであれば、私は簡単ではないのかと。キャパシティの問題ならキャパを増やせばいいという発想だと思うのです。ですから、そのために必要な対応をしていく。何が目的かと

いうこと。海洋立国日本ということで、国策としていろいろ書いてありますけれども、そうだとしたらそれに合致するために何をするのか。キャパが足りないのではなくて、必要ならキャパを増やすということなのではないかなと思いました。

【都立学校教育部長】 非常に積極的な意見で、心強うございます。今の点を踏まえて検討してまいりたいと思っております。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、本件につきまして報告として承りました。

## 参 考 日 程

### (1) 教育委員会定例会の開催

4月12日(木) 午前10時

教育委員会室

【教育長】 次に、今後の日程について、教育政策課長、お願いします。

【教育政策課長】 次回、教育委員会定例会は、来月4月の第2木曜日であります12日の午前10時から、教育委員会室にて開催を予定しております。

以上です。

【教育長】 日程については今、説明があったとおりでございます。

## 日程以外の発言

【教育長】 そのほか、何かございますでしょうか。

【北村委員】 この議事にはないのですが、先日報道された、性教育の問題について学習指導要領に載っていないということで、それを確認するというもの必要なことでもあるのかなと思うのです。同時に、保護者の立場からは、学校で適切に客観的な立場から性教育をきちんとやっていただくことも大事だと思います。

ので、この点について今後きちんと議論を更に深めていく必要があるのではないかと  
思いまして、少しここで発言させていただきました。

【教育長】 性教育につきましては、報道された件について、足立区との協議を継  
続しているところをございまして、その状況につきましては、また別途御説明をさせ  
ていただければと思います。

ほかによろしいでしょうか。

それでは、これから非公開の審議に入ります。

(午前10時33分)